

教育にとって大事なことは多岐にわたると考えます。何よりも「生きる力」をはぐくむことが大切だと考えておりますし、近年ではそれに付随して、「持続可能な未来のための教育」や「多様性の尊重」、「批判的思考の育成」「ICTの活用」、「創造性の促進」なども必要になってきます。

特に小中学校教育においては児童・生徒が自立し、社会に寄与する人物として成長することを支援することが重要になります。そのために、様々な学びの場を提供し、小中学生のみならず、すべての方々に「自分たちが動けば、社会は変わる」ということを知ってもらうことが必要です。

私自身は、これまで様々な社会活動やフィールドワークをする中で、「まちづくり」に関わり、そこで暮らす人々の営みや思いに触れ、実践力やマネジメント力等をつけさせていただきました。その経験の中で社会の在りようが自分の思う良い社会と異なることは、社会の責任だけでなく、そこにしっかりとアプローチできていない自分にもあることを知りました。そしてアプローチできた時に少しずつ社会が変わっていくことも知りました。

たとえば、私は今、当たり前となった「居場所づくり活動」に15年程度前から携わってきました。15年前は、その存在や必要性を理解していただけない方も多数おられ、納得できないことも多々ありましたが今はそうではありません。様々な居場所に関わってこられた方々のご尽力もあり社会が孤立や孤独を理解してくださるようになったのだと思います。

その一方で私も、様々な方々から地域社会の面白さや、伝統文化、産業、これらがどのように日本や世界と繋がっているのか、その魅力と可能性を教えていただきました。居場所も地域性や文化、産業などを理解してつくっていかなければ、地域の理解もえられず、地域の孤立や孤独に対して有効にはならないことも学びました。協働や共助がなければ、社会は変わりませんし、これからの持続可能な発展は難しいでしょう。

今の小中学生らとは異なり、私は「総合的な学習」を受講した世代ではありません。自らの体験と、大学生時代以降の学習や研究により実感しました。だからこそ、「自分たちが動けば、社会は変わる」と知り、その基盤となる力を養っていただくことが教育にとって大切だと信じております。

児童・生徒が自らの成長に合わせて、社会と向き合い、自分の考えを持ち、自分自身が今、どのような学びをするべきか考える社会が浸透していけば、必ず社会は変わります。草津市の保護者の方からも「子どもが社会との関わりを考えるようになり、能動的に教科の学習をするようになった。大人として、自分ももっと勉強をしなければと考えるようになった。」との話を聞く機会も先日ありました。教職員のみなさんが考えられた学びが児童・生徒だけでなく、草津市民のみなさんにも影響を与えているのだと思います。

今後の AI 時代においては数値によって物事を考えることや統計的なパターン認識によって教育のあり方も様変わりしていきます。ただし、AI の指示で動くだけでは個別の問題に対応することは難しいですし、特に過渡期においては、そのメリット、デメリットに対する理解も不十分なまま進むことになるでしょう。

しかし、その中で児童・生徒が主体的に教職員の力を借りながら、基礎教育を学びつつ、社会と向き合い、様々な成功体験と失敗体験を繰り返す中でデータと実態の一致と不一致などを学ぶ経験を積み重ねてもらうことによって AI 時代やこれからの社会変化に対しても対応できる「生きる力」をはぐくむことができると考えています。

私自身も研究者、社会科活動家として、自らも学び、小中学生をはじめ、全ての社会に住む人たちに対して共に様々なつくっていくことができることですし、そのように尽力することが、私ができる教育への貢献と考えています。